

提案企業（団体）名 サグリ株式会社（兵庫県）

テーマ 経営所得安定対策等の現地確認業務効率化アプリ「デタバ」の実証

実施目的 現地確認を行うに際して、衛星データで推定が可能な部分は、目視確認数を低減させ、また目視確認結果をデジタル保存し業務をDX化することにより、自治体の労力等を減少させる。

<従来の方法>

農地の目視確認・紙の台帳

農地の目視確認

広範囲に及ぶ農地を1つずつ目視で確認。
場合によっては数回足を運ぶことも。



紙の台帳

紙の台帳をもとに調査。
紙からパソコンにデータ入力している。





膨大な時間と労力

<今回の実証で実現したいこと>

他地域の作物を学習したAIモデルが福井県の作物も分類可能か検証し、自治体の労力等を減少させる。

作付けの推定結果を把握できる

衛星データをもとに、作付けされている作物を推定しWeb上に表示します。申請作物と合っているかひと目で確認できるようにします。



作付け判定結果をWeb上で記録

作付け判定を行った場合、結果をWeb上で記録します。紙からパソコンにデータ入力をする必要がなくなるようにします。



①衛星データで推定が可能な部分は、目視確認数の低減、②目視確認結果をデジタル保存し、業務のDX化。

連携先 小浜市

提案企業（団体）名 サグリ株式会社（兵庫県）

テーマ 経営所得安定対策等の現地確認業務効率化アプリ「デタバ」の実証

Q. CO-FUKUIに応募したきっかけを教えてください。

当社の「デタバ」が募集テーマと合っていたのと、たまたま当社の別サービスの実証を前年にご一緒した小浜市様が募集テーマを掲げられていたのにご縁を感じ、応募させて頂きました。

Q. CO-FUKUIで実証実験を行ってよかった点を教えてください。

小浜市様に助けて頂き、良いサービスを展開できそうなところまで漕ぎ着けたことです。途中、事業遂行に必要なデータが入手できないかもしれないというトラブルもありましたが、小浜市様に根気よく関係部署とご連携頂き、何とか目標を達成することができました。

Q. 本事業で何を実証したのか教えてください。また、その結果もあわせて教えてください。

衛星データとAI解析の技術を用いて、小浜市内の作物の分類を予測する実証を行い、水稻と麦類の予測精度に関しては約9割超を達成しました。これにより現状は、自治体の職員等が一つ一つの農地に赴き、農家が申請した通り作物が農地で育てられているか確認する業務に関して、人工衛星の目が人の確認業務を一部代替してくれることが期待できます。更にサグリは「デタバ」というアプリも展開しており、ナビ機能や写真保存機能など、衛星データを分かりやすく活用できるだけでなく、紙の地図も不要となる業務のDX化にも資するツールをご活用頂けます。

Q. 今後、実証実験を行った事業をどのように展開していくのか教えてください。

自治体の皆様にとって、現地確認における負担は非常に大きいものですので、まずは県内における普及・展開を実施いたします。また現行の制度も変えていく必要があると考えている為、多くの事例を元に現地確認のルール改定の提言もできればと思っております。

関係者のコメント

小浜市農政課
奥村様、高山様

市が事務局を担当する農業再生協議会では、人手不足と業務増大により、6月を中心に年数回行う転作作物の現地確認が大変負担になっております。衛星画像から作付作物を解析する「デタバ」の活用で①麦や大豆、野菜など転作作物が何なのか②その作付圃場が分かることで、業務の省力化につながると考えています。また農家さんから提出される営農計画書に記載された作付作物と実際の圃場現況の相違も事前に見つけることができるので、現地確認後に「〇〇にも△△が植わっている」という連絡があり、再度現地に出向くという無駄がなくなると考えております。

■メディア掲載

- ・ 22年12月28日 日経新聞 Web版
- ・ 22年11月22日 DRONE
- ・ 22年10月7日 愛媛経済レポート
- ・ 22年8月2日 アグリジャーナル
- ・ 22年7月4日 農機新聞
- ・ 22年6月20日 SMART AGRI
- ・ 22年6月17日 日刊工業新聞、日本農業新聞、yahooニュース